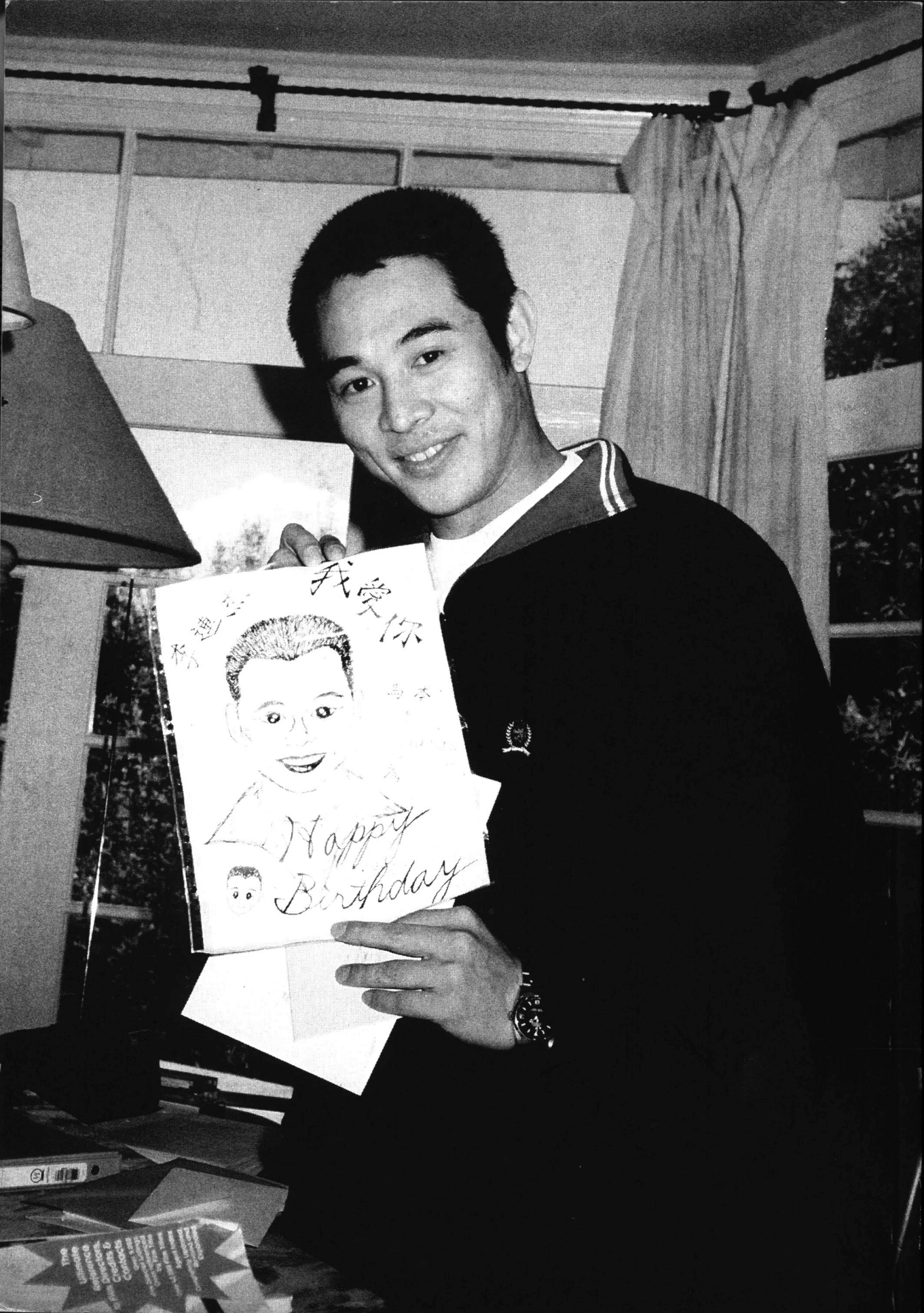
我愛你
Happy
Birthday

パスパスパスパス・・・・・・・。と、調度私がこのインタビュー記事の原稿を書いていた所でした。陽佳ちゃんからの原稿（「我去・香港」などの今回掲載の物）がＦａｘされてきたのです。ブップップップップッ・・・ピー。「おおっ。大量な原稿を非常感謝！！」と思いながらそれをチェックするのは後にして、先ずは時間の有るうちに自分の原稿を書き上げてしまう事にした。何故ならば、私はまとまった時間が無いと、どうも原稿が書けないという体質のようなので、月一の休日であったこの時に、書けるだけ書いてしまわなければ、完成もいつになるやら分からないからなのです。ある程度書き終えた頃になって、彼女の原稿を見て爆笑（苦笑か？）してしまいました。というのは、私が書いていたような事と同じ事がそこに書かれてあったからです。（で、今自分の原稿をちょっと書き替えてる訳ですが。）

「人間パニックになると何語で喋っているのかわからなくなるらしい…」の部分がまさにそれで有ります。この私、中国語が出来ないという事は常日頃から言っているので、皆様も耳タコではないかと思うのですが、英語はもっと分からないのです（こっちも耳タコか）。英語で喋るぐらいなら、中国語の方が数十倍も喋れるだろうという程に全く分からないのであります。（だからと言って中国語がスムーズに話せる訳でもないのですが。）なのに、なのに、あ〜。
応援しているスターが英語圏の人で有るならまだしも、相手は中国語圏の人。なぜに英語で喋ろうとするのか！！自分が理解出来ない私でした。
そう・・・インタビューに行ったあの日、李連杰先生にどうしても英語で答えようとしてばかりいた私だったのです。自分の事ながら「バカだったな〜」なんて思わず笑ってしまうというのに、そこに陽佳ちゃんの原稿が・・・。 もう、たまったもんじゃありませんよ〜。大爆笑です。はい。（笑ってる場合でも無いのですが・・・）

◇　◇　◇　◇

話しは変わって・・・、彼等はとても親切な方々でした。ビンボーファンクラブの事を察してくれて、「通訳者はこちらでなんとかするから連れて来なくても良いよ」とまで言って下さったぐらいなのですヨ！ここまで親切に言って下さる方も居ないのではないかと思います。（だからと言って本当に連れて行かない私もかなりずうずうしかったでしょうか・・・？）でも本当に金銭面でも悪戦苦闘してたから、お言葉に甘える事にしました。そして・・感謝をしながら一つの不安が頭をよぎるのでありました。英語が全く出来ない私は（←もう聞き飽きたから省きなさいって！）当初、通訳者に目的地までの案内まで押し付けようと企んでいたものだから、さあ大変。現場に無事にたどり着けるのだろうかという心配が出てきたのです。李連杰先生が北京語を喋る人だとはいえ、そのアシスタントさんが（その他の方々も含み）北京語を話す人だとは限りません。『英語しか話せない人だったらどうしよう』とか、『たとえ中国語が話せる人だとしても“広東語”を喋る人だったらどうしよう』という不安がつきまといます。いや〜。アシスタントさんが北京語を喋れる人で本当に良かったです。もしも英語オンリーの人だったり、広東語で喋る人だったりしたら、もしかすると李連杰先生には会えていなかったかも・・・・。(^_^;)

◇　◇　◇　◇

実際のインタビューを行なう前に少しばかりアシスタントさんと打ち合わせをして、インタビューの内容チェックなどをして貰いました。アシさんとは、終始、片言の普通語（中国語の標準語）で会話したのですが、（時に分からない名詞が出た時には英語の名詞を使ったりしたけど）モロに片言では有ったのだけれど、それでも結構たくさんお話し出来ました。なのに何故李連杰先生を前に中国語が出て来んのじゃ〜！！（泣）もう自分でも訳が分からない状態となってしまっていて、英語で「あぅあぅ」もがいているし、黄飛鴻の阿蘇のように、「ど、ど、」どもってしまうし・・・。おぃおぃ、何とかしてやってくれ〜、あまりにもみっともないぞ〜〜。

これまでに、イベントなどに行ったりしてるので、李連杰先生と会うのは今回が全く初めてという訳では無いのですが（もう４回目だ）、全く進歩しない私です。今回、スタッフの１人くらいは行けるだろうなんて勝手に思い込んでいたのですが、この話しを持ち出した時点では、既にスケジュールが詰まっていたり、アメリカは遠すぎるという事で行ける人が居なくて、結局私だけがアメリカに行っちゃった訳ですが、今度、また取材の機会が訪れた時には、引きずってでもスタッフ陣を連れて行くぞと心に決めたのは，言うまでもありません。次の機会には覚悟していて下さい、スタッフの皆様！！
それと、今回、出発の前にちょっと怪我しちゃいまして、その時思ったのですが、『もし、私まで行けなくなったらどうするのだろう？』という不安感を覚えました。まっ、這ってでも行ける範囲の怪我なら行くぞーとは思っていますが、どうにもこうにも行けなくなる事だって有るかもしれませんし。実は、原稿を書いている今も怪我をしてしまっています。ドジな私は５月５日の早朝に、仕事中にバイクで転倒してしまって全身打撲な上に両膝と右肘の強打＆擦り傷、最悪な事にむち打ちになってしまって、首を動かす時や眠る時がもう大変なのです。痛いのなんの・・・。
こういう事が、今年は４度目（５度目？）なので、ちょっと慎重にならなければなりませんね。　あ～ぁ。鈍臭くなってきているのかなぁ？それとも今年は厄年なのでそのせいなのかなぁ？はたまた李連杰先生の事ばかり考えてボ～ッとしてるせいか（笑）？

◇　◇　◇　◇

さてさて、恥ずかしい思いをしたのは、言葉だけでは有りませんでした。李連杰先生と御対面した瞬間からそれが始まったのです。いや～、もう、固まる、固まる。李連杰先生を目の前にした私はフリーズの嵐でした。李連杰先生に会って、お決まりの台詞「你好，・・・」と言ったその後に早速フリーズ。頭の中で「請座，請座。（どうぞ座って下さい）」の声が響いてくるのに、ボ～ッとつっ立っている私。右耳から李連杰先生の声、左耳からアシさんの声で、２度・３度となく「請座」の言葉が聞こえて来るのだけれど、目の前真っ白、頭の中も真っ白、かすかに頭のてっぺんの方で“請座”の言葉がエコーしている。「あ～。座れって言ってるわ～。」などと、頭の隅のどこかで考える力はかすかに有るようだだけど、立ち尽くしているままの私。今思い出しても恥ずかしい・・・。でも、たぶん、彼等はきっと「請座の意味が分からないのかなー！？」と思っただけでしょうね～。まさか「変な奴だ、何故座らん！！」とは思ってはいないでしょう・・・と、考えたいところなのだけど、実際はどう思われていたのやら？その後も、何度かフリーズしてたから、かなり危ない奴だと思われていたかもしれません。ちょっと心配。（苦笑）
あうぅ。最初から最後まで恥をさらしている私でありました。シクシク。

◇　◇　◇　◇

ハッとして、やっと着席した私は、こんな調子じゃ、みんなから預かってきている誕生日カードや手紙も渡し忘れて帰ってしまいかねないと思った

ので、とりあえず先に渡す物だけ渡してしまおうと、かばんの中からこれまで出してきた会報の全部（１号〜１１号）と、名簿と、みんなからの手紙類を、説明も無しにどんどこ渡して行くのでした。（説明くらいしなさいよ〜。トホホ・・）会報は、発行する度に香港に郵送していましたが、いつか本人に手渡せる日が来たなら全部手渡しておきたいと思っていました。
説明もせずに、ボコボコ渡していったものだから、当然「これは何？」という顔をしながら、それらを見る李連杰先生。「あっ太陽の（会報か）！！」と言っている。まずい！！何か説明の一つくらいしなければ！！と焦るけれど言葉なんて出て来ない。それと同時に、初めて見るかのように会報を見ている彼の姿を見て、「これまで香港に送り続けていた会報は *やっぱり届いていないのかー」（*やっぱり = かなり昔に聞いた話しで、日本のある芸能人の実話なのですが、スターに届く手紙の量がとても多い為、手紙類は総べて事務所で開封をしていて、時に出す返事も事務所の人の代筆だったりで、スター本人に読んで貰える手紙の数はごくごくわずかという事らしい。）とも考えてしまった。焦りまくりの、この忙しい時にでも、他の事までいろいろと考えてしまう余裕が有るのが不思議だ。「（これは）手紙だな。」と李連杰先生が思っていた所でやっと「みんなからの誕生日カードです」と言えた。フ〜。

◇　◇　◇　◇

行きは「ニヤニヤ」、帰りも「興奮」だった為、時計なんて見る余裕が無く（身につけていたのにもかかわらず。）確かな時間は分かりませんが、インタビューは、時間にして・・・４０分前後といった所だったでしょうか？（よく分からない・・）そろそろ帰る頃になって出発する前に想像していた事を思い出しました。「あっ！！」って・・。
それは、「みんなからの誕生日カードを持って貰った所を写真に撮らせて貰おう」というのと、そしてどこの雑誌でもやっているような「会報を持って貰った所を一枚撮らせて貰おう」な〜んていう事を考えて行ってたはずなのに、そんな事はすっかりと忘れていました。やばい。やばい。
「いか〜ん ！！」「とにかく撮らねば ！！」と思った私は、焦ってしまって、突然「持って下さい（「持て」だけじゃ分からんて・・）！！」と李連杰先生に。李連杰先生まで焦ったかどうかは知らないけれど、まとめて持とうとしたカードの数枚を落としたりしていました。（私が悪いんです・・）なんとか、カードを持ってくれてる物を２枚撮影したものの、もう、帰らなきゃいけないのでは？という焦りや、これ以上の事を言うと迷惑なのでは？という思いから、「（会報を持って貰った所を写したいから）もう一枚写させて欲しい」とは、どうしても言えませんでした。
いよいよ、さよならの時間。急ぎ早に立ち去ろうとした私に、「どぅも、ありがとうございました。」と李連杰先生が。「う〜ん、今日は李連杰先生の言葉がやたらと日本語で聞こえるぞ〜」と思っていたら、こちらは本当の日本語でした。（うわぁ。うまいじゃないかー。）またもや目の前真っ白になりそうだったけど、なんとかふんばって（？）帰って来ました。

そのうち失神してしまうかもしれません・・・。
しかし、私の方がお礼の言葉を言う立場だと言うのに、彼からこのようなお言葉を頂けるとは思っておりませんでした。この「日本語」で言ってくれたという事に深〜い意味が有ると私は思います。相手の国の言葉で言おうとしてくれている行為は、それだけ相手に対して気を使って下さっているという事なのだと思うのです。自分も経験有るのでそう思います。単なる社交辞令などでは無く、彼のやさしい心の現われではないでしょうか？日本のファンのみんなに対してのやさしさだと思います。それにしても、本当に礼儀正しい方ですよね。
そして、李連杰先生も勿論そうなのだけど、アシスタントさんがまたとても良い方なのです。アシさんと話していて思ったのだけど、中国人ってみんなあんなに良い人ばかりなのかな〜。日本人には感じられない物（う〜ん。言葉にすると難しいな〜。）を感じて、初対面だったと言うのに、何故かとても安心出来ました。ホッと出来るのですよ。話していてとても楽しかったです。お二人とも、とても忙しくしていらっしゃっていたにもかかわらず、私達の為に時間を作って下さった事には私は彼等に感謝のしようが有りません。より一層、日本での応援に励まなければなりませんね。皆様、頑張りましょう!!

◇　◇　◇　◇

お待たせしました。以下、メッセージ＆インタビューの内容です。

◇　◇　◇　◇

こんにちは。李連杰です。お会い出来て嬉しく思います。
あなたが日本の李連杰ファンクラブ「太陽」のみんなに僕からのメッセージを伝えてくれる事を願い（希望します）ます。

日本人の中に僕に関心を持ってくれていたり、僕の映画が好きだという人が居るという事を知って、とても嬉しいです。
一生懸命、役を演じる事で僕はみんなに感謝したいです。

◇　◇　◇　◇

（Ｑ）　リーサルウェポン４は、李連杰自身の声で撮影されているのですか？　それとも香港映画のように吹き替えなのでしょうか？
（李）　リーサルウェポンの中での声は全部僕の声です。アメリカの映画は、全部現場で録音するから、だから僕がしゃべっている声なんです。

（Ｑ）　台詞は英語で言っているのですか？それとも中国語で言っているのですか？
（李）　どっちも有るんです。中国人同志で話す時は中国語で話すし、外国人、アメリカ人と話す時は英語で話しています。

（Ｑ）　私は、リーサルウェポンシリーズを見ましたが、リーサルウェポン１〜３までに出てきた悪役は、全員死んでしまいましたが、今

回はどうなのでしょう？　やはり、あなたが演じる役の人も死んでしまうのですか？

（李）　これは２５本の映画に出演して初めての悪役を演じたんだけど、僕等はまだ撮影中で、まだ映画が封切られていないんだ。僕はこの質問はファンのみんなの頭の中にとっといてもらって考えていてほしいんです。（つまり、当ててごらんって事か！？）
封切りの時が来たらすぐに僕（の演じている役の人物）が死んでいるのか、いないのか分かるから。

（Ｑ）　今回初めて主役以外の役を演じている訳ですが、悪役を演じてみてどうですか？　ご感想をお願いします。

（李）　僕は香港で沢山の映画に出演しています。みんなも良く知っていると思うけど、すべて主役をやらせてもらっています。時にはヒーローの役もやりました。今回初めての悪役なんです。僕は役を演じるのに、時には新しい事（演技関係）を勉強しなければいけないと思うんです。こういうのは恐らく僕の演技にとっては一つの大きな挑戦になるから。今回のこの作品は、とてもすばらい作品になると思うし、アメリカから言っても一億ドルを超えるようなすごい作品で有る訳だし、それに、とても特色の有る演出と俳優の協力があるので、とてもチャレンジ性が有ると思うんだ。
だから悪役を演じるのは一度やってみたかったんです。

（Ｑ）　メルギブソンってどんな人ですか？　どう感じていますか？

（李）　メルギブソンはとてもすばらしい俳優であり、演出家でもあります。彼の演技も多くのアクション映画に代表されているので、みんなは恐らく見たことが有ると思うけど。
僕は彼と一緒に仕事が出来てとても嬉しいんです。僕等はとても仲が良くて、一緒にリハーサルをやったり仕事をしたりしたんです。この映画で構想したアクションは、全部僕と僕の友人が手伝ってくれて構想したのです。だから僕等があるアクションを構想して、それが出来た時にメルギブソンや出演していた役者にこうやって（パチンと手を鳴らす）カンフーと中国武術でするのを教えたんです。たくさん勉強する経験があって、みんなにとって、ある種の新しい挑戦になってとっても面白いと僕は思うんだ。

（Ｑ）　聞くところによると、リーサルウェポン４完成後そのプロモートで、メルギブソンと共に来日するのでは無いかという噂が有るのですが、今年、あなたが来日されるという可能性は有りますか？

（李）　今はまだ撮影中で５月の中旬頃に撮影が終了するんです。僕も映画が上演される頃にいくらかコマーシャル活動があると聞いています。夏休み頃に上演だと思うんだけど、僕等はワーナーブラザーズが準備してくれるのを待っているんです。もし彼等がセッテ

ィングをして我々が行くのであればすごく嬉しい事ですね。チャンスがあれば日本にも行きますよ。その時に日本でファンの見んなとあえるチャンスが有るといいですね。

（Ｑ）　香港映画の撮影の仕方とアメリカでの撮影の仕方とは、違いが有るのではないかと思うのですが、アメリカ映画に出演していて、不自由な面（苦労する面）を感じた事は有りますか？

（李）　香港映画は撮影の時間が短いんです。ずべてのコストもアメリカほど莫大じゃない。だから香港は非常に短い時間でとり終らないといけないんです。基本的には２台のカメラでやります。撮影は早いし、うまく行かない事も多いし、時間も短い。
アメリカはというと資金は多いし撮影の時なんか７台のカメラで同時に取るんです。一つの芝居を一回で撮ってしまうという話もある（？）。だからこれらが香港との大きな違いだね。これは僕に言わせれば非常に大きな挑戦になりますね。

（Ｑ）　毎日欠かさずやっている事（日課）は有りますか？

（李）　当然これは毎日しなければいけないんだけど、８才の頃から武術を習っていて、ほとんど僕の人生は武術と共に有るんです。武術は僕の人生を変えました。　はは・・（笑）。何十年もずっと武術を勉強して練習してきていて、毎日こんなふうです。でも僕には自分の練習方法があって、つまりみんなが見た事があるようなフィットネス？・マシンを使ったトレーニング・ジョギングなどは筋肉を鍛えるんだけど、中国の武術は中国の文化とおおきな関係があって当然外面を鍛えなければいけないんだけど、もっと大事な事は自分の精神を鍛える事なんだ。つまり内面・外面共に訓練しているんですよ。

（Ｑ）　自分が出演した映画の中で、１番好きな映画は何ですか？

（李）　僕は多くの映画に出演したし、どれも一生懸命やっています。
映画というのは良いところがあって、つまり一人が努力してその映画が良いのか悪いのかの評価を受けることは出来ないんです。ちょうど僕が以前出場した武術の大会で、僕が一生懸命練習していたら優勝出来たというようなものなんです。でも映画は一人が努力しても、もしストーリーがつまらなければ、発表してもお客さんが好きになるとは限らない。だから僕は自分が「この映画が一番好きだ」というのはなくて、お客さんが「一番好き！」という映画が一番大切だと思うんだよ。だからお客さんが一番好きという映画が僕も好きなんだ。

（Ｑ）　好きな言葉は有りますか？

（李）　ハハハ・・（笑）　えーと・・、この質問は難しいなぁ。（笑）

「毎天都要努力」（毎日一生懸命する）とか「毎天都是新」（日々あらた？）かな。毎日というのは僕に言わせれば新しい始まりだからね。

（Ｑ）　好きな色は何ですか？
（李）　少し淡い色が好きですねぇ。たとえば白・グレー・ブルーなんか好きだけど・・。

（Ｑ）　よく聞いている音楽とか有りますか？
（李）　えーと・・音楽は・・・　軽いノリの　・・・　８０年代のアメリカのロックなんか好きですね。

（Ｑ）　あなたはこれまでに世界中を訪問していますが、１番好きな国はどこですか？　そしてその理由は？
（李）　僕は４０数ヶ国に行った事があるけれど、それぞれの国で風俗・習慣が全然違っていて、みんな忘れられない経験なんだ。日本には、多く訪れました。
毎回経験する事が違っているのでどこに行っても忘れられない経験をしたという感覚が残っているんです。だから僕はどの国も好きなんですよ。だってみんな風習や文化が違っているしね。僕は幼い頃から武術を習っているけど、正規の学校で（こういう）文化を勉強した事がないんだ。だからどこに行っても、そこが（文化を勉強する）学校だと思っています。人生の中で色々勉強をしたけど、これらは僕が出演している映画の中でも大きな助けになっているんです。

（Ｑ）　これまでに演じてきた役で１番難しいと思った役柄はどれでしたか？
（李）　僕は、一番難しいのは良いストーリーを探す事だと思うんです。
良い台本の映画を撮るときが一番難しい。というのは、世界には色々な国が有って、違う映画を撮ったり、違うドラマを撮ったりする。僕らは新鮮味の有る、みんなが見た事ないようなのを撮って、みんなに見てもらいたいんです。
でも実際には、世界にはみんなが見た事があるようなものがたくさんあります。だから毎回めいっぱい考えて一つのストーリーを作らないといけないんです。良いストーリーをね。
その良いストーリーは、あなたや僕やみんながとても好きだというのが一番難しいんだ。だから撮影の時はそんなに難しくないけど、良いストーリーを探すのが一番難しいですね。

（Ｑ）　「日本でロケをして欲しい」と希望する人が多く居るのですが、将来、日本で映画の撮影をするという事は可能性としてみてはど

うでしょう？　有るのでしょうか？

（李）　機会があればどこかに行って撮影したいですね。僕も日本に行って撮影や仕事をしたいと思っています。チャンスが有れば本当に日本に行って映画を撮ってみたいです。

（Ｑ）　香港映画ではこれまでにいろんな俳優さんが女装をしてきていますが、日本のある雑誌では、李連杰さんの女装が一番「美しい」というような事が書かれていましたが、本人としてみてはどうなのでしょう？自分の女装メイクを見た時、どう思いますか？

（李）　ハハハハハ・・・。（爆笑）
僕も以前に女の子の役で映画に出た事は有るけど、楽しくて面白い（？）と思う。でも知っての通り映画というのは毎日同じ仕事じゃないんです。たとえば“毎日銀行に出勤する。”“１０年同じ仕事をする”というようなね。
映画は、今日は古代のものを撮影すれば、翌日は現代のものを撮影したりと、それぞれ映画に出てくる人物は同じじゃないんだ。だから僕にとっては大きな挑戦になると思うんだ。
中国人の女の子の役は演じた事が有るけど、日本人の女の子の役は演じた事はないんだよね。もし機会が有ったら（少し吹き出しながら）、日本人の女の子の役も演じてみたいなぁ～。（笑）

（Ｑ）　動物は好きですか？

（李）　えぇ。動物は本当に可愛いくて色々好きです。小鳥や犬や猫、魚とかみんな大好きです。でも僕はペットを飼っていません。と言うのは世話をする時間が無いからなんです。小さい動物とかを飼う時は絶対愛情をいっぱい注いであげて、長い時間かまってあげないといけないと思うんです。もし仕事などで、すぐにアメリカに行ったり、中国大陸に行ったりなんかして世話が出来なくなったらと思うと、やっぱり飼えないですよね。

（Ｑ）　好きな食べ物は何ですか？

（李）　僕は・・・当然、中国の食べ物が一番好きですね。中国の北方のね。（笑）だって僕は中国の北方で育ったから。
でもいろんな国へ行っているし、いろんな国でいろんな食べ物を食べたりするのも好きなんです。日本のもよく食べてみてるんですよ。いろんな国に違ったおいしい物がありますからね・・・。

（Ｑ）　Ｊｅｔ　ＬｉのＪｅｔというイングリッシュ名（芸名）は、どのようにしてつけられたのですか？　何か意味は有りますか？

（李）　Ｊｅｔ・・。知っていると思うけど「Ｌｉ　Ｌｉａｎ　Ｊｉｅ（李　連杰）」と言うのは、僕の中国語での名前。英語の読み方で発音すると自分の姓が名前の前に出てくるよね。だから「Ｌｉａ

ｎ　Ｊｉｅ　Ｌｉ」と変るんです。初めて映画を撮った時、少林寺のを撮った時に、宣伝ポスターを見たんです。フィリピンでのを。それには「Ｊｅｔ　Ｌｉ」と書いてあったんだ。どうして僕の名前が「Ｊｅｔ　Ｌｉ」になっているのか聞いてみると、「Ｌｉａｎ　Ｊｉｅ　Ｌｉ」というのはポスターで載せるのには長いのでＬｉａｎをとって「Ｊｅｔ　Ｌｉ」にしたって言うんだ。
「Ｊｅｔ　Ｌｉ」というのはそうして出来たんです。
でもね、みんなすぐに覚えてくれるし、ある映画に出演してとても成功したんです。日本の人も含めて沢山の人が見てくれたんです。みんな「Ｊｅｔ　Ｌｉ」というのはいいと思っているみたいですね。Ｊｅｔというのはジェットエンジンなんかのようにエンジンの中でも一番すごいやつだしね、パワーもある。だから今までずっとこの名前を残してきているんです。

（Ｑ）　もうずいぶん前の噂なのですが、あなたの引退説が一時的に噂された事が有りましたが、あなた自身は、この後どれくらい、今の職業を続けて行かれると思われますか？　引退についてどう考えていますか？

（李）　僕には（そういう、引退の）機会が無いんです。ずっと映画を撮り続けていましたから。
だって僕にはまだ多くの人達が支持してくれていると思っているし、まだ良い映画を撮ることが出来ると思っています。
僕は良い題材を探して映画をもっと良くしたいと思っているんです。でも当然だけどみんなが僕の映画を嫌いになったら・・・。
じゃぁ引退しようかなぁ。（笑）

（Ｑ）　一番得意な武術の型は？

（李）　僕の一番好きな型（動作）ね・・。
僕はたくさんの型を勉強したんです。というのは８才の時から十数年練習したからね。
それが終わってから映画に出演するようになって、また普通に、あるいは不定期に再練習しているんだ。
今ではもう二十数年間しているけど、具体的にどういう型かと言うと分からないんです。ただ一種の「風格」みたいな物ですね。
そう、つまり「ジェット風」というところかな。
僕が出来る型というのは、ある種の風格みたいなやつだけなんです。（でも）僕は「これ」がみんなが僕を好きになってくれている要因だと思うんですよ。

（Ｑ）　人間関係についてはどうですか？　辛く感じる事は多いですか？

（李）　これははじめに話した問題に答える必要があるようですね。
僕は武術を勉強している。武術は他のスポーツと違っているんで

す。例えばサッカーをする。グランドでサッカーをする。キックが凄くてテクニックが凄ければそれでいい。どんなスポーツでもそうです。
僕は武術、中国武術や日本武術の最高のレベルというのは相手を攻撃したり、相手を倒したりする事ではなくて自分自身を鍛える事だと思うんです。世界で一番の強敵は自分自身なんだから。
どのようにして自分に打ち勝つかというのは最高のレベルだと思うし、どのようにして「ちゃんとした人間」になるかというのも最高のレベルだと思う。
簡単な例を挙げていうと、僕らは太極拳を知っている。太極を知っているんだ。この世界というのは元々「無極」なんです。僕の理論上では、無極というのは何も無い事で、無極から太極に変化するんです。みんなが見た事の在る黒と白の物・・つまり「陰」と「陽」だね。（ＦＣ“太陽”のロゴマークにも有るあれか!?）
現在で例えて言うなら天と地。天があって地がある。男がいて女がいる。良いものが有って悪いものが有る。どれも同じで、総べての物に良いところと悪いところがあるんです。
もしもこの天・地が４つの方向、東西南北に変化したら「八卦」に変わる。だから世界中のものというのは、こういう風にしてなっているんです。だから困難に出遭った時に、知りたい困難というものがきっとあるはずなんだ。
食べ物を食べる時、おいしい物があればまずい物もある。物事が順調に行っている事があれば必ずうまく行かない事もある。これが生活・生命なんです。人の和という物は僕にとっては困難な事だと思います。僕の理論、つまり武術の理論が既に、人生というのは、２種類良くないのであれば悪いということに直面しているんだと言っているんです。
どのように成功したのか・失敗したのか・人と接したのか、いろんな方面に行って自分を探し、何が自分で自分は毎日何をしているのかという事を知るべきなんです。これが「生きている」という意義だと思います。
社会に対する貢献と好きな事に対する事業、例えば武術に対する貢献というのがその人の「人生観」なんです。
僕は自分の人生観から言えば、これは武術から来ていると思うんです。だから僕は武術がとても好きだと思うんであって、武術が僕にどういう風に「ちゃんとした人間」になるかを教えてくれるんです。

（Ｑ）　自分の長所と短所は何だと思いますか？
（李）　生活している中で、世界中のみんなに長所・短所が有ります。例えば僕の長所（得意）は武術です。幼い頃から（武術の）勉強しています。あとはいろんな国に行ったり、いろんなことを見たり

、いろんな場面を見てどういう風に人間関係なんかを作ればいいか分かっているところですね。
短所は幼い頃からの「精力」を、全部武術の練習のために使った事かな。
だから自分を変える為の勉強をする時間が、あまり多くない事なんです。勉強を始めるというのは、例えば新しい言葉を勉強するというのはアクションを覚えるのと全然違うんです。だから僕は勉強するのに多くの時間をかけなければならない。
例えばいま僕は映画を撮る時に英語を使っています。つまり英語を勉強するのに、ものすごく多くの時間を使っています。この世界中に、万能な人・何でも分かる人なんていないんです。毎日僕等が「一日を生きる」という事は、つまり「一日勉強する」ことなんです。
中国にはこういう言葉が有ります。「活到老、学到老」ってね。
（生きている限り勉強をする。簡単に言うと生涯学習かな？）

◇　◇　◇　◇

うひゃ〜。結構有りましたね〜。（歓喜）
ちょっと大量すぎたせいか、原稿の後半になった所で、疲れてしまってボーッとなっていたのでしょうね。・・おバカな私は、せっかく完成しつつ有った原稿の一部のデータを（パソコンに入っていたデータを）消去してしまうという行動を取ってしまって、「ギャ〜〜！！」なんて言ってたりしていました。（といっても原稿３枚分だけだけなので、被害は小さかったのですけどね）
こうして見ると、向こう（アメリカ）でインタビューの内容を見て貰った時に、アシスタントさんに「おおっほほ・・」と驚き＆笑い（苦笑か？）の声を挙げられてしまったのも納得してしまいます。
でも、当人（李連杰先生）は、苦痛な顔などする事も無く、機嫌良く答え続けてくれてたのが何よりです。
いざ、原稿にしようと思ったらかなりの量（結局、１２ページかな？）になりそうで、そうなると、あまりに「文字ばかり」というのも何だな〜と思い、イラストでも描こうかなと考えていたのですが、冒頭に書いてある全身打撲の日からどうもあまり調子が良くなくて、時々昏睡してしまう日が有ったりで・・・自分で決めていた原稿締切り日が過ぎてしまうし・・で、結局、挿絵の方はあきらめました。「右開きに横書き」の会報なので文字ばかり続きすぎると読みづらいかもしれませんね。申し訳ないです。
でも、私の器量（？）の悪さは、今回、李連杰先生がフォローして下さっているので（インタビューに答えてくれてる事を言っている）、良しという事にしてやって下さいな。へへへ・・。ダメ？